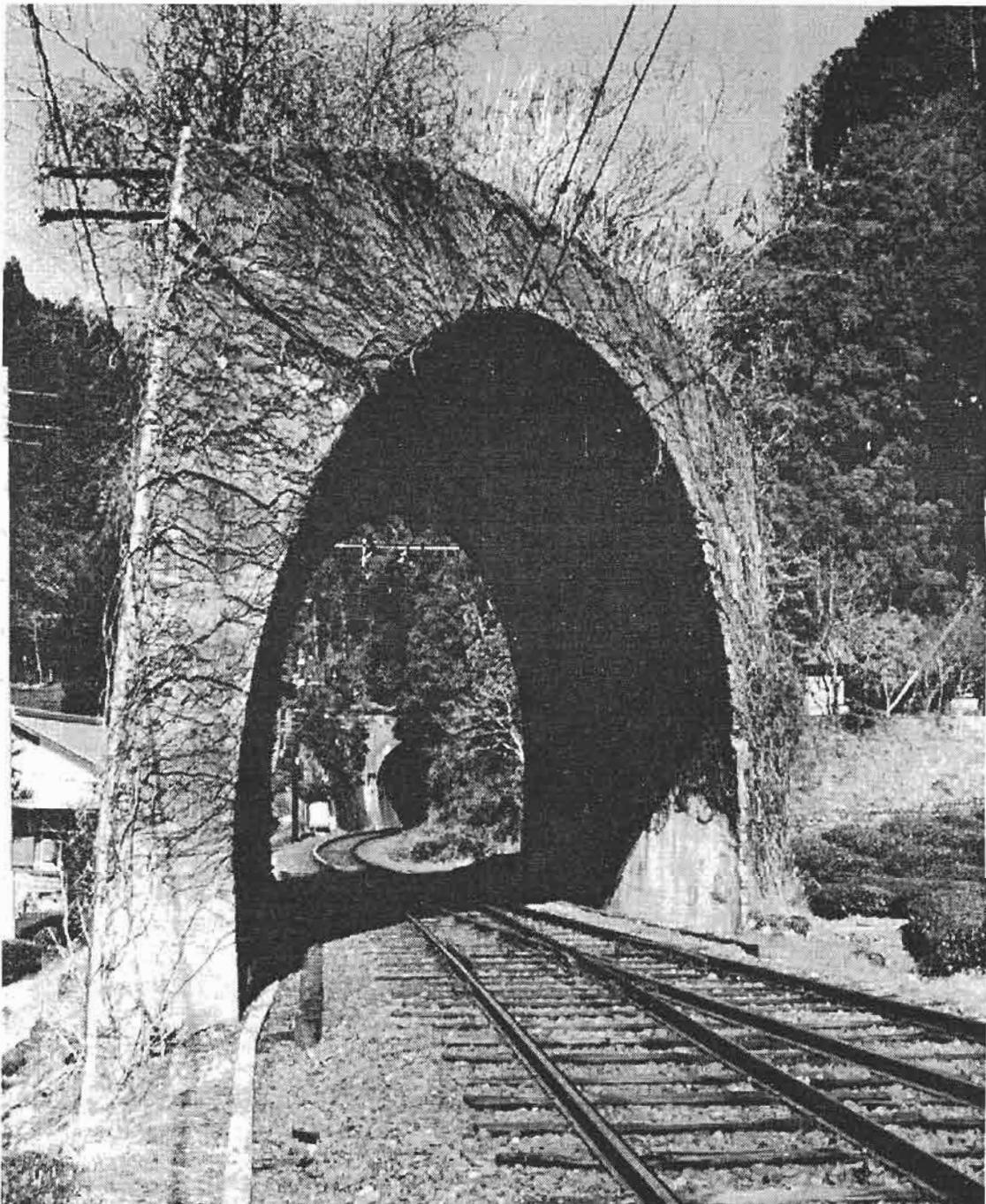


中川根ふる里通信

= 第44号 =

編集・発行・モアラブ中川根
連絡先 〒428-03
静岡県榛原郡中川根町上若尾
中川根ふる里通信係 859-6
TEL. 0547-56-0015
郵便振替口座 00870-4-81556



“日本一短いトンネル？”

大井川鉄道地名駅北側に“川根索道保安トンネル”
があります。長さ約10m、産業遺産としても注目されています。

任期満了 2月9日、選挙にて決まる 新中川根町議会議員

氏名	年令	出身地区	所属政党名	歴歴
石原 真澄さん	56	下長尾	無所属	現
板谷 信さん	46	地名	地名	現
太田 博恵さん	62	上長尾	上長尾	現
小沢省吾さん	50	高郷	高郷	現
杉山嘉英さん	42	壱町河内	壱町河内	現
鈴木忠夫さん	58	田野口	田野口	現
鈴木多津枝さん	50	徳山	日本共産党	新
高村吉弘さん	51	徳山	無所属	新
滝尾輝久さん	53	瀬平	瀬平	現
竹下時夫さん	67	下泉	下泉	現
中原信さん	59	久野脇	久野脇	現
西村藤一郎さん	61	藤川	藤川	現
山口信雄さん	66			新

町議会議員の任期が二月にて満了。前回は定数十四にて無投票。今回から一議席減の十三となりました。立候補者十四人少數激戦の上、八年ぶりの選挙戦となり、春浅い山里は立春と共に熱い戦いがくり広げられました。町民の期待と願いを背負って当選されました。方々をご紹介します。(アイウエオ順)

花村元次さん 高郷
中原 實さん 上長尾
中川達夫さん 下泉
勝山守正さん 下泉

任期満了にて、議員を退かれる方々、長い間の議会活動ありがとうございました。ご紹介します。(アイウエオ順)

町内人口が確実に減っている現在、議員定数が削減される事になりましたが、一人減にとどまり、ひと安心です。我が町は選挙熱の高い方と思われますが、今回新しい年になつても選挙になるのか否か、定まらず、二月始めになつてようやく立候補者があがつて選挙にならう、との状態。昨秋の衆議院選のあじけなさも加わって、民意の伝わる場も足元から無くなつて行く気配を感じましたが、蓋をあければ、一人落ちる、という激しい選挙戦になりました。開票してみて一位当選杉山嘉英さん五三口、二位小沢省吾さん四四口、三位鈴木多津枝さん四〇六票と、町議選の町民意識も以前より変わつて來た様に表面的には感じられる結果となりました。

以前は地区代表町議の感が所方に見られましたが、杉山さんの出身地区は六十余票、小沢さんの地区は地区票の半数は逃げたる都市型、鈴木さんは唯一人の政党候補で地域票はあてにはらない。その様な中での上位当選には、地域枠をこえて今、我が町にどの様な代表者(代表者)が必要なのか、広い目で選挙する意識が表れて來たのではないかと考えます。今行先暗しの川根路に、一すじの光明となると信じます。

市町村別健康指標まとめる

二月十一日静岡新聞一面にうれしい知らせが載っていました。日本一健康県を目指し、目的に向っていいる静岡県の内、市町村別健康指標で、中川根町がトップに立ったことは、町民の健康意識の向上や、よい水、お茶の効用に加え、役場保健衛生課の健康管理、指導(特に住民健康診断への真剣な取り組み)が大きいと思思います。高齢社会とは申しましても、誰一人健やかに一生を終りたいと願っております。そういう住しの生まれる町に一步近づいたと思ひます。

昨年成人病の病名改め生活習慣病となりました。健診日に合わせて少しでも数値を良くする為、不斷の生活を節制する人がある

病でもほぼ同じような結果となっている。

予測値を「100」(県標準)とし、数値が高ければその市町

村の死者や、成人病で死亡する人が多いことになる。それによると、「全死亡」の標準化死亡比は、静岡市を境に西部で低く

東部は高い。豊岡村や中川根町、浜北市、三ヶ日町などでは死亡比が低かったのに比べ、芝川町、蒲原町などでは高い。

一方、がんによる死亡比は伊豆の一部、御殿場市、駿東郡の一帯などで120を下回ったものの、東部地区の多くは100~120の範囲で静岡市以西より死者が多い。蒲原町、伊豆長岡町は130を超えた。半面、中川根町、小笠町、川根町、森町、大東町などは、がんによる死亡比は低かった。

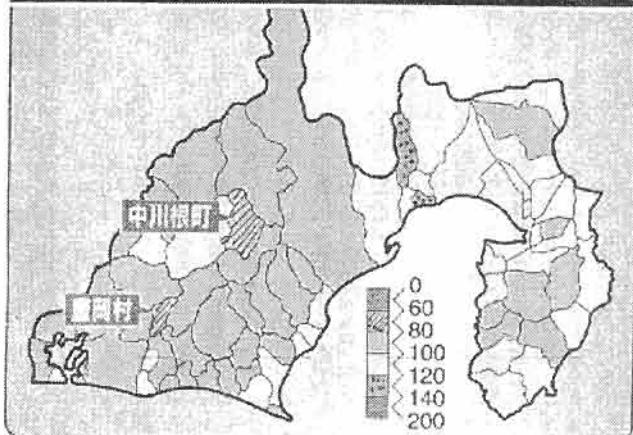
心筋こうそくによる死亡比は川根町、竜山村、南伊豆町などで130以上の高い数値を示したのに對し、中川根町、三ヶ日町、福田町、曲田町などでは低かった。

脳こうそくによる死亡比は河津町、水窪町、賀茂村で150を超えて、修善寺町、芝川町、春野町などでも130を上回った。一方舞阪町、細江町、竜山村、引佐町などでは低い。

と聞き、今一たが、初期の病気を発見出来ない事もある様です。年に一度は自らの健康の尺度として健康診断を受けたんですね。——新聞よりお知らせします——

県内の死亡率 『東高西低』型

全死亡者標準化死亡比(1992~1994)



* 色区分が判りにくい為。
図と図にしてあります。

県保健衛生部

がん・脳卒中・心筋こうそく 3大成人病死も同傾向

劇団たんぽぽ事務局長

上保竹即子さんご紹介



執筆中の著者

静岡新聞コラム“窓辺”に、旧姓

橋本節子さんが寄稿されて四回になります。子供達に“夢と希望をあげる”職場でご活躍なさっていらっしゃること、すばらしいですね。ご紹介します。なお“窓辺”に寄稿される方々は県内でも第一線で活躍されておられる特別な方々です。

故郷のこと

私の故郷は、川根茶で有名な中川根町藤川です。初夏のころ、大井川鉄道に搖られ川根路に入ると、茶工場の香ばしい匂いが漂ってくる。その匂いは山家の生活を後にし、肩肘張ってキミを優しく包み込み安堵感を与えてくれる。そのたびに故郷のある自分は幸せだと恩い、ありがたいと思う。

私には大井川ひとつとっても懐かしい思いがいっぱい詰まっている。今まで観光用にSLが走っている時などが、子供のころ、大井川で水浴びをしている時などが、SLが時計のかわりをしてくれた。あのころは時々「木流し」といて、大きな材木をつなげ筏を作り、おじさんたちが川を下って行く。筏が来ると友達と「乗せて乗せて」と頼み込み、万世橋の下まで乗せてもらったり、また近くの畑からトマトやキュウリなどをいただいて、川で冷やして食べたものです。

余録

もう四十年前、テレビの無かったあの頃、町の公民館で三四の村内小学校の子供達があふれるほどになつた中、たんぽぽ劇団の公演がはじまるのです。ソラ豆の見えるまで、と言う劇の事、ステージが終り出典スタジオ一同、幕の前に並ばれ自己紹介、アコーディオンにあわせて“たんぽぽ、たんぽぽわたしのたんぽぽ”の歌声がなつかしく

川で遊びにはそれなりの決まりがあり、土手に赤い旗が立っていると、游泳禁止・ダムが放水する時は、サイレンが数回鳴る。ただちに川から上がらなければいけないのだが、私たちは川遊びを続行した。実際はその後に流れてくるあぶくを合図にして、いたのだ。あぶくが流れてくると、五分後ぐらいには水がさか増していく。そこには、みんな着替えが終わっている、といつたあんぱいたった。

十数年ほど前、甥たちが小学生のころに“川遊び”的話をし、「行こう」と誘ったところ、「川は危険だから、子供だけでは行つてはいけない」と断られてしまった。(私は大人と見なされていなかつたようだ)。確かに危険はいっぱいある。でも自然の中にはそれを越え、人間として学ぶことや魅力があふれているのです。

大水が出た時の大井川は、濁流と化し、竜が何匹も何匹も暴れ狂っているようで怖くて近づけない。が、いづれに水が引くと、支流の小川に魚が逃げ込んでいたり、石けりに落ちてこのすべすべ石が見つかり、グミの実の実りが良かつたり、と、大井川にはすてきなことがいっぱい詰まっているのです。

浜松市にお住まいです。

国道362号線 上長尾・水川間 難所オオホツに 水川トンネルが開通



上長尾水川間は大井川が大ักษ蛇行しています。白羽山から伸びる山脚は半島になつて大井川に突き出し、先端の岩場には流れが当たり、深い渕をつくっています。(オバ渕と呼ばれ、尾呂久保のオロチ(大蛇)もひと休みしたとの伝説の渕も、この節土砂がたまつて見る影もありませんが)

その切り立つた崖の中腹に道があり、突先の鋭角な曲りをオオホツと呼んで、細道の昔から舗装路の今日まで交通の難所となつております。

道の拡幅が出来ないので、トンネルを

掘る計画が出来工事にかかり一年余、二月十二日待望の開通となりました。

入口の飾り縫も茶どころにふくわしい「茶の花」、通る車をやさしく迎えてくれます。入口付近の道路整備も完成すれば、あつと言う間に通過してしまいます。

春秋の行楽シーズンの車の渋滞や、中学校生の自転車通学の恐怖も、もう心配いりません。

上長尾水川間は大井川が大ักษ蛇行しています。白羽山から伸びる山脚は半島になつて大井川に突き出し、先端の岩場には流れが当たり、深い渕をつくっています。(オバ渕と呼ばれ、尾呂久保のオロチ(大蛇)もひと休みしたとの伝説の渕も、この節土砂がたまつて見る影もありませんが)

オオホツは、山桜、コナラ、キブシ、ヤガツツジ、フジと、秋には紅葉、黄葉も美しいところ、対岸の田野口地区や大井川の曲流を見ながら散歩されていかがでしょう。

トンネルの向こう

水川に山の神様

のお祭りがありました

遠い昔から山に住うす人々によって受け継がれて来たお祭りに、「山の神の祭り」もありました。新しい道が出来、山越えの道は通る人もなくなり、山の神々に無事を祈ることさえ、わすれてしまふのも時が流れと思われる時代で

すが、山仕事をする人達の間では、二月七日と十二月七日は、「山の幸」(山の講)といつて山へは入らず、お休みをします。

水川の皆さんは、二月七日、竹筒にお酒を入れて山の神様にささげることをずっと続けています。わらのつと(藁で編んだ籠)にばた餅を五つ入れてささげる人もいるそうです。

十月七日もやっている……山の神様は大きな木の所で今も五千所あるとか。



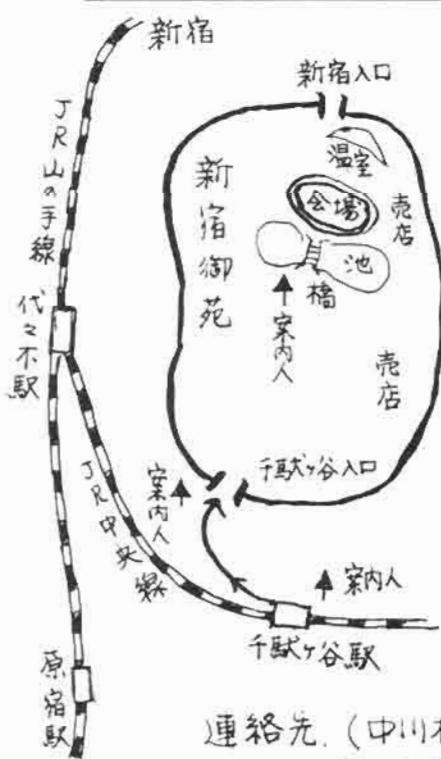
地名はタイムトンネルの郷

表紙の保安トンネルをはじめ、地名地区にはいくつものトンネルが在ります。鉄道も道路も入り口はトンネル（川根町側）で始まり、地名駅の前後に川根東道保安トンネル・東海バルブ地名発電所水路取水口（仮の浦付近）には四つの道水トンネル・岩間渡発電所へ水を送るトンネル、そして鉄道は地名の地のはずれにも在ります。

そのほか、東海バルブ地名発電所、明治十二年に築かれた農業用水路、望田碑、鶴山の七曲り瀬替えの歴史など、江戸時代から現代まで産業の歴史博物館そのものです。大井川鉄道地名駅に写真の看板が設置されました。地名から岩間渡まで、鶴山の七曲りをウォークイングする人もふえて来ています。是非来て見て下さい。



関東地区 中川根会 第3回「故郷を想う会」のご案内



春爛漫 花見会を開きます

関東地区「中川根会」も過去4回開催されました。今春、第3回目を「桜の花の下で『逢いましょう』」と新宿御苑にて開かれることになりました。

懐しき人々、初めての人、ふる里通信等がご縁でお逢い出来る、又、同郷の人々のつながりが出来たら、うれしいですね。小沢節子も参加させていただきます。

日時 4月6日(日)午前10時より
場所 新宿御苑 一左図参照 連 雨天中止
会費 500円 (通信費別)
用意するもの、のみ物、食事、敷き物、ゴミ袋

連絡先 (中川根事務局)

142、品川区小山4-16-16、中野唯司、03-3782-2885

TEL 午後7時より

第2回 ふる里ウォーク ご案内

出発 下泉 → 下長尾 → 瀬沢 → 平谷 → 三津間 → 久野脇 → 塩郷 着
 9:50 (大井川鉄道、千頭駅 9:00 下泉着 9:20) 16:00
 (大井川鉄道、金谷行 16:40)
 *自動車の方は、駅の大鉄駐車場(有料)又は、駅西側野球場をご利用下さい。千頭行 16:28

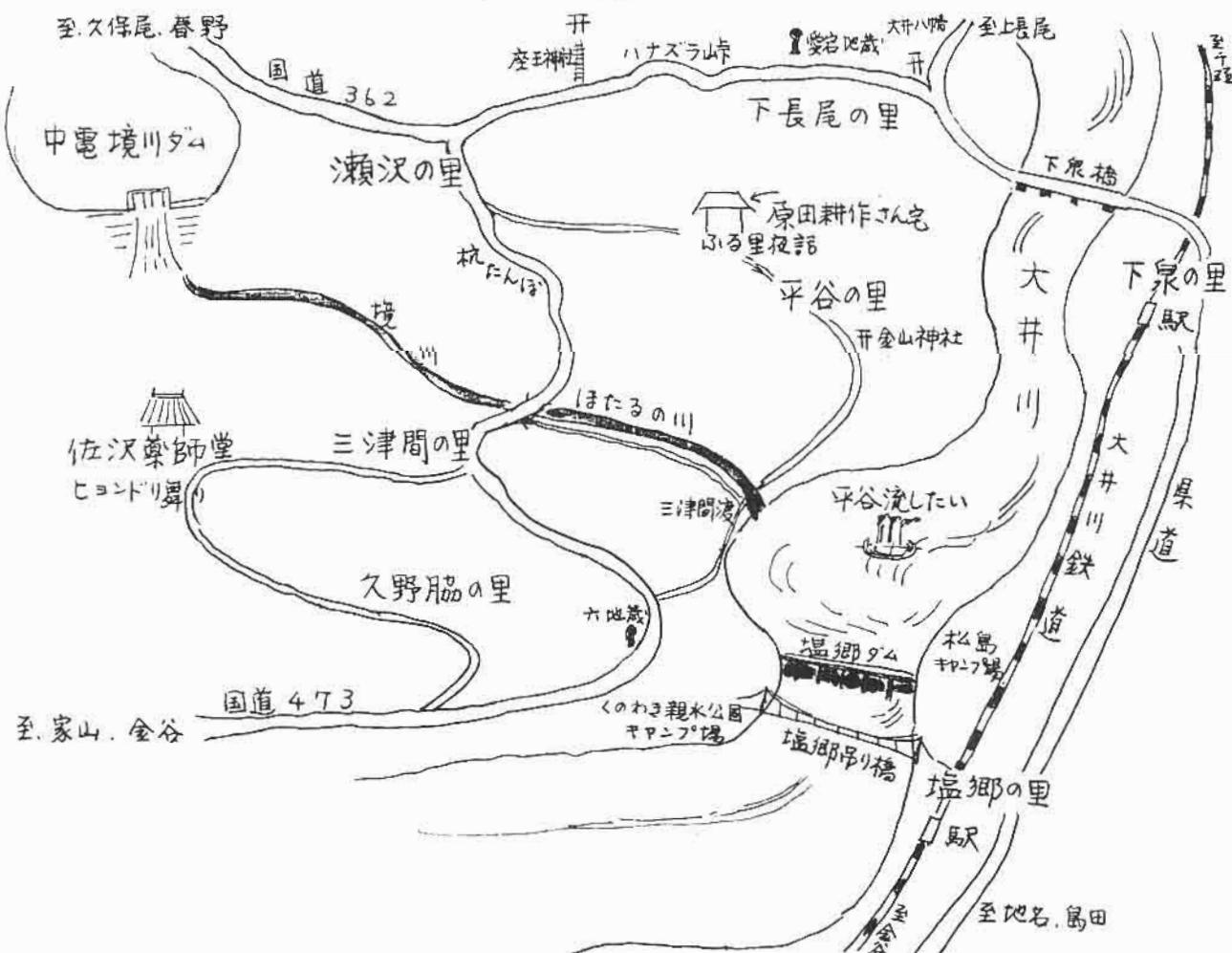
日 時 4月 13日 (日) 雨天の場合 20日 (日)

午前 9時 30分より、下泉駅集合

持ち物、昼食、飲み物、おやつなど、雨具。

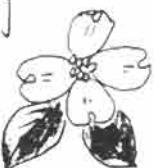
春のふる里をあなたの目と足で"味わって"いたたきたく計画しました。

下泉駅を出発、下長尾を通り、瀬沢へ、中電境川ダムを見て、ふる里夜話の原田耕作さん宅付近(瀬沢原)で昼食、原田さんにお話しをしていてほしい、流したいの平谷へ、三津間渡よりほたるの川(境川)を見て、三津間へ、ヒヨンドリの佐沢薬師を見て、久野脇へ、大井川の吊り橋を渡って、塩郷駅まで、川根茶ヒロ、歴史、そして原田さんを尋ねるウォーキング。是非来て下さい。13日、雨の場合は、20日となります。20日が雨の場合は中止です。案内人は小沢節子です。TEL 0547-56-0015。(連絡先)



“学舎”徳中時代のこと

西田享司



私とふる里との係わりで、見遇すとの出来ないのは、徳山中学の存在です。学校と家との間に近い、という物理的要因も大きかったことは事実ですが、それが踏台となって私の徳中時代は、身心両面において、最もとも充実した青春時代でした。

学校と家が至近距離であることは、次に述べるように一長一短があります。私の場合は、味噌汁の冷めない距離どころか、道路一本隔てて学校の玄関と向き合っていたのですから、ヘル、鐘は聞えるし、いろんな会話が耳に入ってきた。徒歩でお昼のお弁当や、どんな雨でも傘を持参したことはありませんでした。

その一方、病気で学校を休んでいると、学校の様子は手にとる様に解かり、騒音が耳につき、安眠出来ない有様でした。又、友達との登下校時に味わった。又、友達との登下校時に味わうであろうスキンシップの体験が出来ないのは寂かに反面、下校時など、私の家が溜まり場になることがよくありました。

“徳中”とは正しくは、“株原郡中川根村・志太郡徳山村・組合立徳山中学校”といい、大変珍らしくもあり、長たらしい呼称でした。又、不思儀な縁で、



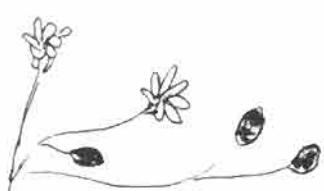
青部地区(現本川根町)の人達が、私達の学年だけこの“徳中”へ在学しておきました。彼達は、大井川鉄道を利用せず、全員徒步通学でした。そして男子は下校時、私の家で待ち合をして帰って行かれることがよくありました。それが、私をして連帯感の如き親しみを覚え、当時の友情そのままに一部の人達とは、今もお付き合いさせていただっています。

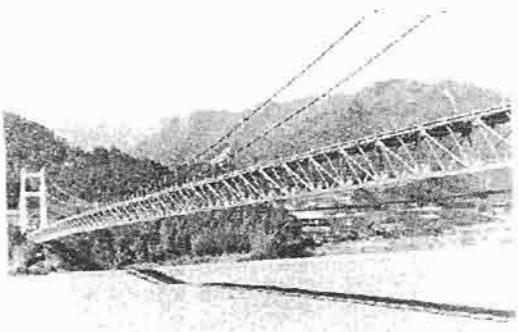
当時は終戦後、昭和25～28年で、物資にはまだ恵まれず、学校の制服などではなく、履物も下駄、草履靴等自由でした。

私達の徳中時代頃から、確かに、向いの藤川地区との中学合併が行われ、組合立になったものと記憶しておりますが、それまで徳山と藤川間には、若者達の敵対意識が、根強く残っていましたこと、巷の噂で聞いたことがありますから、この双方の中学校の合併は、両者の仲直りに一役買つたものと云っても過言ではないでしょう。

当時、世の中は、企業の技術革新が叫ばれつつある時代で、学校生活も年々厳しくなって行きましたが、家庭の手助けのため、就学が思ひもよらない友達もおりました。

徳中の当時の校舎は、青年学校から払い下げられた古い平屋の校舎と、新築の木造二階建てが主なものでした。運動場は拡張され、マイイの広さでしたが、石ころや凸凹があり、いい状態ではありませんでした。





萬世橋 S43年まで

私は実家に帰った時、跡地に建つ川根高校巡りをすることがあります。高校とは云え施設、環境の立派さは、当時と雲泥の差です。

私は課外(ララブ活動)でユニークな永松先生担当のラジオクラブで、友達と鉱石ラジオ製りをしたり、百葉箱の中に設置された気象観測装置の測定の手助けをしたりしたことが、懐しく思ひ出されます。永松先生は、途中で教師を辞め、当時創設された自衛隊(保安隊)の幹部生として入隊されて行きました。

私達にとって学校という共通の場を通して、戦後の復興の中で、明るく振る舞い、未来への希望を抱き、お互に切磋琢磨したのが、徳中時代だった気がします。

勝山三郎校長先生を初め、当時のほんどの恩師が、物故者になられた今、当

時を忍ぶ事は一面寂しさを感じます。

特に本年一月中頃

尊敬する恩師、黒木先生(伊東市在住)が亡くなられましたことを聞か

(一) 大井の流れ水清く
朝な夕な鏡にて
練りが磨きこの热血を
示せ徳中找が健児

(二) ああ青春の胸高く
希望漲る若人の
若き血潮のおどる時
徳中健児の意氣高し

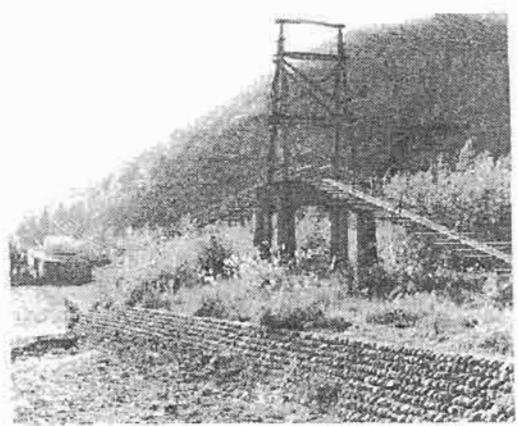
徳山中校歌

静岡市在住

さて、同級生で静岡市に在住する前田智士君は、大会社の役員を定年で退き、今尚、傍系会社で社長として筋腕を振るつておられますし、多くの方々が未だ第一線で活躍されておられます。

しかし、御年六十歳、人生の大きな曲り角です。ご不幸にも、すでに数名の方が他界されました。昨年お亡くなりになった静岡市在住の田畠君の告別式は、徳山大泉院の方丈さんが努められ、同級生で静岡市在住の中道正己君が友人代表として立派な弔辞を述べられました。彼のご遺骨は、ご先祖の眠る徳山の墓地に埋骨されると聞きました。

改めて、彼のご冥福をお祈り致します。



旧鶴徳橋 S37年まで

私達の学年は、青部の人達の特別入校もあり、百二十名近くもあり、超過密状態で、一時三クラスに編成替えされた程です。現在中川根中学の全生徒が二百名前後という、ことから比べますと、大変な数だったと思います。

私は実家に帰った時、跡地に建つ川根高校巡りをすることがあります。高校とは云え施設、環境の立派さは、当時と雲泥の差です。

私は課外(ララブ活動)でユニークな永松先生担当のラジオクラブで、友達と鉱石ラジオ製りをしたり、百葉箱の中に設置された気象観測装置の測定の手助けをしたりしたことが、懐しく思ひ出されます。永松先生は、途中で教師を辞め、当時創設された自衛隊(保安隊)の幹部生として入隊されて行きました。

私達にとって学校という共通の場を通して、戦後の復興の中で、明るく振る舞い、未来への希望を抱き、お互に切磋琢磨したのが、徳中時代だった気がします。

勝山三郎校長先生を初め、当時のほんどの恩師が、物故者になられた今、当

時を忍ぶ事は一面寂しさを感じます。

さて、同級生で静岡市に在住する前田智士君は、大会社の役員を定年で退き、今尚、傍系会社で社長として筋腕を振るつておられますし、多くの方々が未だ第一線で活躍されておられます。

しかし、御年六十歳、人生の大きな曲り角です。ご不幸にも、すでに数名の方が他界されました。昨年お亡くなりになった静岡市在住の田畠君の告別式は、徳山大泉院の方丈さんが努められ、同級生で静岡市在住の中道正己君が友人代表として立派な弔辞を述べられました。彼のご遺骨は、ご先祖の眠る徳山の墓地に埋骨されると聞きました。

改めて、彼のご冥福をお祈り致します。

さて、同級生で静岡市に在住する前田智士君は、大会社の役員を定年で退き、今尚、傍系会社で社長として筋腕を振るつておられますし、多くの方々が未だ第一線で活躍されておられます。

しかし、御年六十歳、人生の大きな曲り角です。ご不幸にも、すでに数名の方が他界されました。昨年お亡くなりになった静岡市在住の田畠君の告別式は、徳山大泉院の方丈さんが努められ、同級生で静岡市在住の中道正己君が友人代表として立派な弔辞を述べられました。彼のご遺骨は、ご先祖の眠る徳山の墓地に埋骨されると聞きました。

改めて、彼のご冥福をお祈り致します。

さて、同級生で静岡市に在住する前田智士君は、大会社の役員を定年で退き、今尚、傍系会社で社長として筋腕を振るつておられますし、多くの方々が未だ第一線で活躍されておられます。

しかし、御年六十歳、人生の大きな曲り角です。ご不幸にも、すでに数名の方が他界されました。昨年お亡くなりになった静岡市在住の田畠君の告別式は、徳山大泉院の方丈さんが努められ、同級生で静岡市在住の中道正己君が友人代表として立派な弔辞を述べられました。彼のご遺骨は、ご先祖の眠る徳山の墓地に埋骨されると聞きました。

改めて、彼のご冥福をお祈り致します。

東京のかたすみから(17)

テレビの始めから終りまで

お笑い四方山話 よもやま

渡 遂 喜 夫

その二

渡 遂 喜 夫

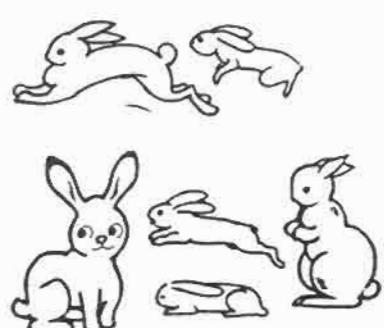
(1) 食べられた出演者

三十八年前、日本教育テレビ(テレビ朝日の前身)の開局当初、昭和三十四年のことである。当時は、局名通り、午前中は学校教育番組を専門に放映していた。教材に使う小動物・雀・鳩・鶏・兔・鬼・猫・犬・猿などが、翌朝の授業に備えて、前夜から籠の中に用意されていた。

私も深夜、放送現場からトイレに行く途中、籠から抜け出したと思われる可愛い彼等に遭遇した。だが、あつた。しかし山に囮まれた川根育ちの私は、特に珍らしく感ずる、とも、驚く、ともなく、大騒ぎもしなかつた。

ところが、スポーツ報道課員は、隣室が教材用動物の控え室になっているため、深夜になると一層大きく聞えてくるピーテク・パチク・ワン・キヤンの鳴声に、常に「うるせえなー」と腹立たしく思っていたらしい。

当時、スポーツ担当者といえば、体育会へスポーツ各界の一流選手の集まりで、同好会のスポーツクラブ(ヒューリック)は段違いの猛者ぞろいで大喰い。現在よりずっと食べ物が乏しかった時代である。



(2) 裸の出演者

ある晩、教育番組の連中が帰った後のこと。「うるさい、この野郎食っちゃうぞ」と一人が怒鳴ったのをきっかけに、早稲田水泳部出身の杉原君(通称デブ君)と、同じく早稲田レスリング部出身でヘルシンキオリンピック選手の永里氏がスタートよく籠に突進、野兎の耳を掴んで籠あり失敬し、二人で片手に二羽ずつ、全部で八羽をぶら下げて、近所の「鳥肉稻毛屋」に持込み、鍋肉用に注文してしまった。

翌朝、なじみの飲屋「お仙の店」で兔チャンコ・スポーツ担当全員で満腹し、「今日も頑張るぞ!」と席に付いた途端、さあ大変。出社して来た教育番組担当の女性ディレクターの甲高い悲鳴「鬼が半分逃げた!!」で周辺は大騒ぎとなつた。

しかし、そこは日頃鍛えたチームワークが身上のスポーツマン。犯人達は、誰一人疑われることなく、兎達の行方は今日まで不明のまま。今は、飲み過ぎ食べ過ぎで故人っぽく、デブ君をはじめ、定年退職などで、テレビ朝日を去って、出演者を食べちやつた。

「木島則夫モニシグショード」など、早朝、深

夜の不毛の時間帯を開拓したのは、テレビ朝日であった。昨今各テレビ局で話題をまいり、トラブルを起していいる「ワイドショーア」のはしりと言えよう。

今を去る二十五年前の昭和四十七年、

ナイトショーとしてスタートした「23時ショーア」で、視聴率を稼ぐには、殿方が喜ぶように、お色気の要素を入れた方が良い、との案が出て、当時、有楽町の日劇で人気のあつたストリップバー達にご出演願うことになった。

出演当日は、「日劇ミュージックショー（ストリップショー）」

がはねて、彼女達が出て来たところを裏門前で待ち受け、全員を車に乗せて、六本木のスタジオへ運んで来た。

さすが本場のステージで先程まで活躍していたベテランスター達、スタジオせましくばかり、テレビカメラの前で見事な演技を披露してくれた。

しかし、かぶりつきのお客様を前に、秘技を見せて喜ばせるストリップ劇場と違って、テレビカメラを相手では少々勝手が違つたらしい。テレビ撮影で一番のカメラマン泣かせの動作であるが、彼女等は平気でカメラの直前に立ちはだかたり、カメラの直前に通過したりした。これにはスタッフ一同驚いたり、困惑したりした。昼間の学校教育番組担当の方には、ずい分苦慮していった。



当時の日本劇場（有楽町）
朝日社より

それを見たさに、まじめな事務部門の連中まで、何だかんだと口実をつけて、深夜まで居残り、社員も大いに樂しむことができた。ワースト番組のNO.1にもなったが、視聴率もぐんぐん上り裏番組を圧倒した。そんな時期は社内も自然に明るくなり、社員の意気も高揚した。

ただし、放送基準の性表現の条文「全裸は原則として取扱わない。肉体の一部を表現する時は、下品、卑猥の感を与えないよう注意する」に抵触しないように、スタッフは細心の注意を払つたものである。

参考資料・テレビ朝日社友会会報
(永里氏・プロデューサー有馬氏)

一九九七年一月二十六日 記



土俵上の相撲取りと同様、「仕事着は裸」という彼女等は、控室への廊下でもどこでも、平気で裸で歩き廻つた。23時直前にわいとなつた。



31. ろるさと夜話

法螺吹き萬空の昔と今

原田耕作

ほら

細は知らない。

は人を笑わせ、時には人を怒らせ、時には人を泣かせたりして居る。ほら吹きという語源はどうから来て居るか、それは法螺貝を吹く、という事から来ている言葉である。

ほら貝はメガホンの様に音声を拡大してひびかせる器具になる。事実を拡大して人に聞かせる、こと、ほら貝を吹く、というわけであるが、ほらには必ず嘘が入っている。事実を正直に人に話すのではなくて嘘を加えて自慢する事を「ほら吹き」という事は誰でも知っていることと思う。

昔、私が子供の頃、祭文と言う声芸があつた。浪花節(なにわじ)は祭文が変化したという説があるが、さいもんの語り初めには必ず声ならじと言つて、ほら貝を口に当てて、れれんれれんとうなる様な声を出一したものである。その文句を語り始めた。

ほら貝はさいもんに付けるものであつたが、別に、昔から現在に至つて、神の修驗者の修業のための鳴物となつてゐる。秋田・山形の出羽三山の修驗者が、ほら貝を吹き鳴らす修行行事は有名である。

しかし世間一般のほらを吹く、ことは、声芸にも神事にも関係無く事実を拡大吹聴する、いわゆる自慢することである。ほらには必ず嘘が混つてゐる。嘘の加わらないほらは無い。

太平洋戦争に依つて食料難に落ち入つた時代、日本では甘藷栽培(さつまいも)に大いに力を入れた時がある。その成果は大きく一個の直径十余センチもあり、一株の根の張りが二メートルもあり、一ヶ四キロもある甘藷が十数個も付いた美事なものも松坂屋(静岡)の店頭に展示したことある。川根の人達もこの甘藷を見た人が多勢おつたと思う。

その文句は忠臣蔵とか、曾我兄弟とか、その他なんでもあつた。さいもんは語ると、ころもあつて、なるほど浪花節の始りかも知れない、と思う

様なものだつた。

錫杖の頭の部分だけ片手に持つてカツテン、カツケンと音を立てて調子をとりながらさいもんは語られた。錫杖の頭(錫杖は坊さんが昔使つた杖の名)を持つにこど、また祭文という文字からみても、宗教に關係ある声芸であると思うが、詳

その頃、川根のある村に、ほらで有名な「ほら下さん」という男があった。その男のほらが面白かった。

九月の夜、風呂から出て門先のいも畠で小便しようとしたところ、不思儀な音がする。耳をすますと、ミシリミシリと何か割れる様な音がする。それが一ヶ所ではなく、甘諸畠のあちこちで音がして居た。調べてみたが、戦争後でローリーも懷中電灯もない。翌日になつて甘諸畠を調べておどろいた。何んとその音は、甘諸が大きくふとるために畠が地割れする音だった、とのことだつた。いかにもほら下さんの話、うしく面白いと思った。

法螺吹きに似ていて少し意味が異う言葉に、まんがらということがある。「まんがら下さん」、まんがらSさん、と言われる人達の言動から見て、まんがらも、ほら同様嘘をつくことだということは判るが、ほんとの意味は判らなかった。

ところが近頃、まんがら茂平次、という小説を読んで、はつきり意味を知ることができた。まんがらとは、言葉が萬あつても中味が空だと言ふことである。ほら吹きは事実を大きくして聞かせる、とて無根では無い、しかし、まんがらは全くの空っぽであるから質の悪い大嘘つきである。



昨年末、続瀬沢ヒ平谷の昔語。

「境川のはなし」が発刊されました。

まことに、日本は、政治家から已れのだら金を引き締めてもらいたい。話はほら貝から始まり、ふるさと夜話、の城を脱するところまで来てしまつて、筆を置くことになります。

ふるさと夜話 第十七話 終り。

がにぶくなるにつれ、高売がなり立たなくなり、今日ではほとんど消えてしまった。しかし、それは山村のことではなく、都市のほら吹き、まんがらの世界は舞台がとてつもなく大きくなってしまった。

政界財界あらゆる階層に渡る詐欺事件の何んと多いことか、詐欺はほら吹き、まんがら、大うそつきの犯罪だ。昔のほら吹き、まんがら事件には、若干の笑いもあつた。しかし今日の事件は欺されて生活に泣く者が、続出している。

ご覧になりたい方は
原田耕作さん
TEL 0547-56-0681
市川学さん
TEL 0547-56-0680
に問い合わせて下さい。

定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 テ共 150円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回の発行(季刊誌)を予定しております。今回で購読の切れる方、初めてふる里通信をご覧になられる方には郵便振替用紙を同封致しますから、引き続きご購読をお願いします。

年間予約600円(150円×4回)のご送金をおすすめします。平成9年度は150円で行きますが、平成10年度は1部200円になるかも知れません。(出来れば現状どおりとなる様努力します) そうなれば、ふる里のスナップ写真サービスもお送り出来ます。

購読を止めたいためや住所変更のおりも是非ご連絡下さい。

郵便払込通知票 00870-4-81556

加入者名 中川根ふる里通信係

ふる里通信に関する問い合わせ先・及

発行責任者 テ428-03

静岡県榛原郡中川根町上長尾 859-6

小沢 節子

TEL 0547-56-0015

中川根でつくる「川根まるごと博物郷」によりが発刊されて2回目になります。中川根の情報などを載せて、年3回発行されます。

もしご覽になりたい方は、通信費として80円切手を同封して、

小沢まで「申し込んで下さい。

3月に発行された2号も対応させていただきます。

三月に入りすっかり春らしくなってまいりました。さくらは桜をはじめ木々の芽吹き、開花が半月位、早いようですね。桜の早い時は晩霜にてお茶がやられるとの説がありますが、どうならない様祈りたいです。

一月一日、初日の出を山大段にて迎えました。山での初日は、何度も迎えておりますが、今年の初日は大変美しく見事なものでした。自然と手をあわせ祈りました。今年もいい年であります様に。

県コミュニティづくり推進協議会の、コミュニティ情報紙コンクールに応募したところ、手書き部門で佳作となりました。ふる里通信は地域コミュニティとは少し異なるも

のですが、賞をいただいてとてもうれしいです。これを励みに一層紙面等向上させたいと思います。



発行日のおくれを取りもどそうと必死ですが、なかなか短離がつまりません。すみませんね。

